キーワード
●整形外科
●気虚
●血虚
●気血両虚
●人参養栄湯

大田原赤十字病院 整形外科 吉田 祐文

問診表の臨床応用

気虚・血虚スコアの臨床応用

頸椎手術後の愁訴の治療は難渋することが多い。とくに、手術が予定通りに終了したにもかかわらず愁訴が遺残した症例では、病態が複雑であり西洋医学的なアプローチだけでは診断にも治療にも苦慮するのが現状である。

このような場合、われわれは東洋医学的なアプローチに基づいた漢方薬による治療が有効であると考え、実践している。

とはいえ、われわれは体系的な東洋医学の教育を受けていないため、どのようにアプローチすればよいか悩んでいたが、「症例から学ぶ和漢診療学」に出会い、八綱と気・血・水の診断には寺澤のスコア[1)]を活用することを学んだ(**表**)。聞き取り調査でスコアをつけているため時間はかかるが、通常の整形外科の診察では多くのことを見落としていることを痛感している。

個々の愁訴の治療に終始するのではなく、全体像を包括的に捉えて治療をする東洋医学的な考え方は、未だ整形外科領域では普及していない。様々な機会を利用して、その臨床的有用性を普及させたい。

今回は、頸椎手術後の愁訴の治療に漢方薬が有効であった3症例を紹介する。このうち2症例は西洋薬による10年以上の治療がなされていたが無効であった症例である。また、3症例とも東洋医学的な診断は気血両虚であった。

表　気虚・血虚スコア

気虚スコア			
身体がだるい	10	眼光・音声に力がない	6
気力がない	10	舌が淡白紅・腫大	8
疲れやすい	10	脈が弱い	8
日中の睡気	6	腹力が軟弱	8
食欲不振	4	内臓のアトニー症状[1)]	10
風邪をひきやすい	8	小腹不仁[2)]	6
物事に驚きやすい	4	下痢傾向	4

判定基準：総計30点以上を気虚とする。いずれも顕著に認められるものに該当するスコアを全点与え、程度の軽いものには各々の1/2を与える。
注1)：内臓アトニー症状とは、胃下垂、腎下垂、子宮脱、脱肛などをいう。
注2)：小腹不仁とは、臍下部の腹壁トーヌスの低下をいう。

血虚スコア			
集中力低下	6	顔色不良	10
不眠、睡眠障害	6	頭髪が抜けやすい[1)]	8
眼精疲労	12	皮膚の乾燥と荒れ、赤ぎれ	14
めまい感	8	爪の異常[2)]	8
こむらがえり	10	知覚障害[3)]	6
過少月経・月経不順	6	腹直筋攣急	6

判定基準：総計30点以上を血虚とする。いずれも顕著に認められるものに該当のスコアを与え、程度の軽いものには各々の1/2を与える。
注1)：頭部のフケが多いのも同等とする。
注2)：爪がもろい、爪がひび割れる、爪床部の皮膚が荒れてササクレるなどの症状。
注3)：ピリピリ、ズーズーなどのしびれ感、ひと皮かぶった感じ、知覚低下など。

症例1：77歳、女性　主　訴：足が重い、歩行時のふらつき

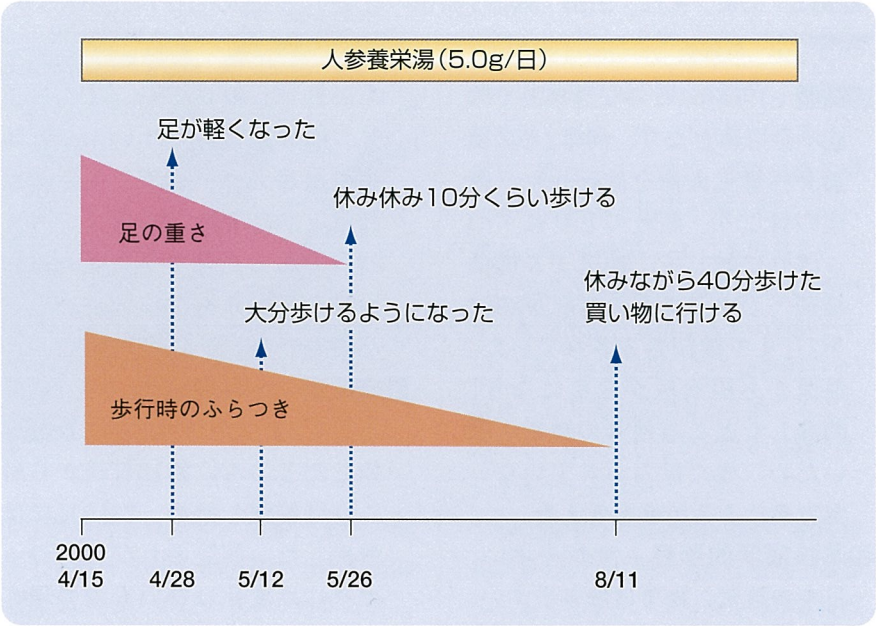
現病歴：歩行障害、巧緻運動障害、四肢しびれ、四肢不全麻痺で1999年6月29日に当科を初診、頸部脊柱管狭窄症と診断した。その後、短期間に胸部絞扼感と排尿障害が出現し、精神的にも追い詰められた状態となり、同年9月2日に脊柱管形成術を施行した。10月17日の退院時には胸部絞扼感は消失し、杖歩行が可能であり、11月29日には杖での外出が可能となった。寒い冬も経過は良好であったが、2000年4月15日に歩行時のふらつきを訴えた。画像検査、神経学的検査では明らかな異常はなく、術前の精神状態を考え、東洋医学的なアプローチが適しているのでは

ないかと判断した。

和漢診療学的所見：身体がだるい、気力がない、つかれやすい、日中の睡気、脈が弱い、腹力が軟弱、小腹不仁などで気虚スコア63点、集中力の低下、眼精疲労、顔色不良、頭髪が抜けやすい、知覚障害などで血虚スコア38点であり気血両虚と診断した。当院に採用されていて気血両虚に適応する方剤には人参養栄湯と十全大補湯があったが、日中の睡気・集中力の低下を心の陰液が衰えた状態と考えて人参養栄湯を選択した。

臨床経過：人参養栄湯5ｇを1日量として投与開始したところ、4月28日には足は軽くなり、5月12日にはふらつきも改善して歩きやすくなり、患者の満足度は高かった(**図1**)。

図1　症例1

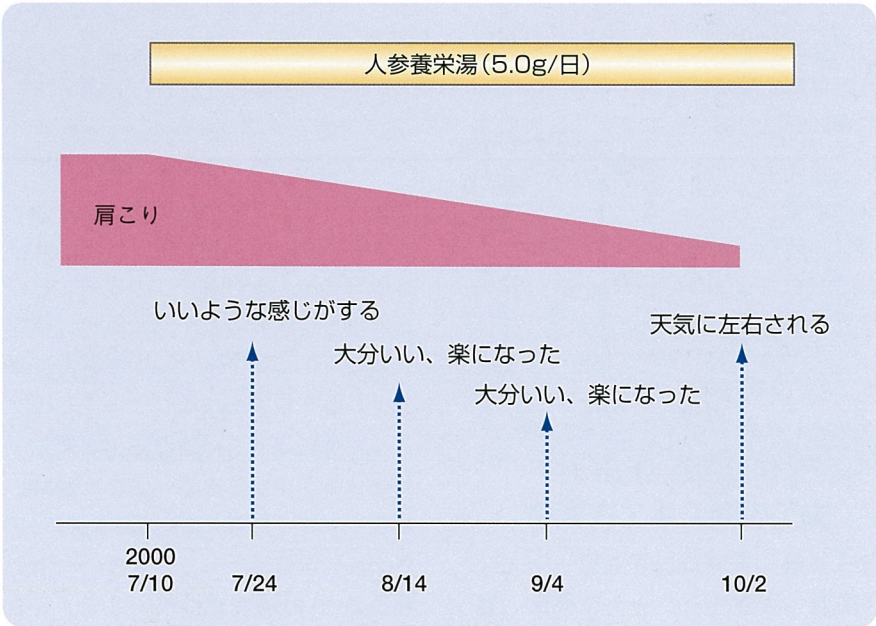


症例2：79歳、女性　**主訴**：頸椎手術後の肩こり

現病歴：1990年、頸椎後縦靭帯骨化症に脊柱管拡大術が施行され、四肢麻痺は改善した。術後に出現した強く頑固な肩こりに対して消炎鎮痛剤、筋弛緩剤、湿布薬が継続投与され、鍼灸治療なども施行されたが効果はなく、2000年6月24日に交通事故で当科を初診したときにも強い肩こりを訴えていた。これまでの治療経過より、まだ試みられていない東洋医学的なアプローチが適していると判断した。

和漢診療学的所見：身体がだるい、疲れやすい、日中の睡気、物事に驚きやすい、腹力が軟弱、内臓のアトニー症状、小腹不仁で気虚スコア49点、集中力の低下、眼精疲労、めまい感、こむら返り、顔色不良、フケが多い、爪のひび割れ、知覚障害で血虚スコア59点であり気血両虚と診断した。それ以外に気鬱スコア49点、気逆スコア36点、水滞スコア45点であり病態は複雑であったが、治療はまず“補うこと”と考え気血両虚の治療を優先させた。症例1と同じ理由で人参養栄湯を選択した。

図2　症例2



臨床経過：人参養栄湯5ｇを1日量として7月10日から投与開始したところ、2週間後の7月24日には肩こりは軽減し始めており、8月14日には大分楽になっており患者の満足度は高かった(**図2**)。

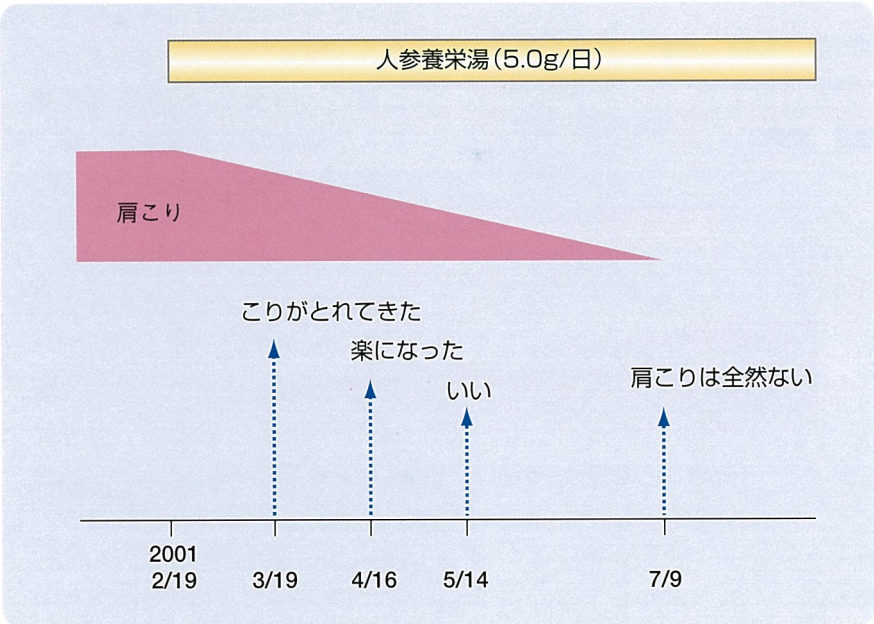
症例3：63歳、女性　**主訴**：頸椎手術後の肩こり、四肢のしびれ・つっぱり

現病歴：1988年1月の交通事故で四肢不全麻痺となり、同年2月に頸部脊柱管拡大術を施行した。術後の肩こり、四肢のしびれ・つっぱりに対して、前医より筋弛緩剤、ビタミンB12製剤が2001年2月まで継続処方されていた。前医から担当医が変更になり、問診したところ何れの愁訴も強いため、まだ試みられていない漢方薬による治療を考えた。

和漢診療学的所見：疲れやすい、日中の睡気、物事に驚きやすい、淡白紅舌、脈が弱い、腹力が軟弱などで気虚スコア43点、集中力の低下、眼精疲労、こむら返り、頭髪が抜けやすい、知覚障害で血虚スコア42点であり気血両虚と診断した。瘀血スコアも23点であったがまず気血両虚の治療からと考え、症例1、2と同じ理由で人参養栄湯を選択した。

臨床経過：人参養栄湯5ｇを1日量として2001年2月19日から投与開始したところ、約10日後から肩こりは軽減し始め、7月9日には消失した。四肢のしびれ・つっぱりには変化はないものの現在に至るまで肩こりの再然はなく、患者は満足している（**図3**）。

図3　症例3



まとめ

われわれの治療経験では、頸椎の手術後に難治性の愁訴が遺残している症例の中には、気血両虚である症例が少なからず存在している。そこでわれわれは、気血両虚の症例に対して、心の陰液が衰えた状態（心の陽気の仮性の亢進）である症例には人参養栄湯を、そうでないものには十全大補湯を使い分けて処方している。必ずしも全例が著効というわけではないが、有効性が高いとの感触を得ている。

今回は気血両虚の症例に対して人参養栄湯が有効であった症例を紹介したが、頸椎術後の難治例には様々な病態があり、整形外科領域で漢方薬による治療方法のコンセンサスが得られるまで、今後ともその普及啓蒙活動を続けたい。

＜参考文献＞

1. 寺澤捷年：症例から学ぶ和漢診療学．第2版，p17，p40，医学書院，東京，1998.